

明治三十七、八年戰役紀念地圖

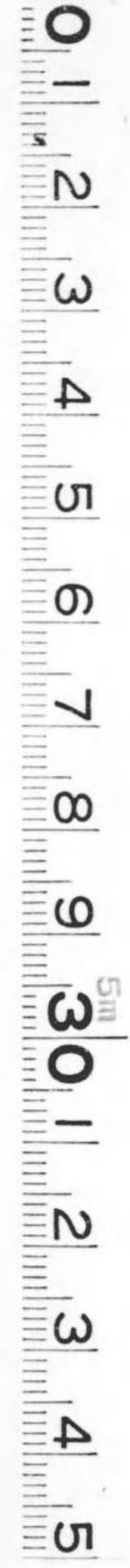
加川千壽編

完

商團圖書

89
129

89-129
1200501332316



始



七十三治明

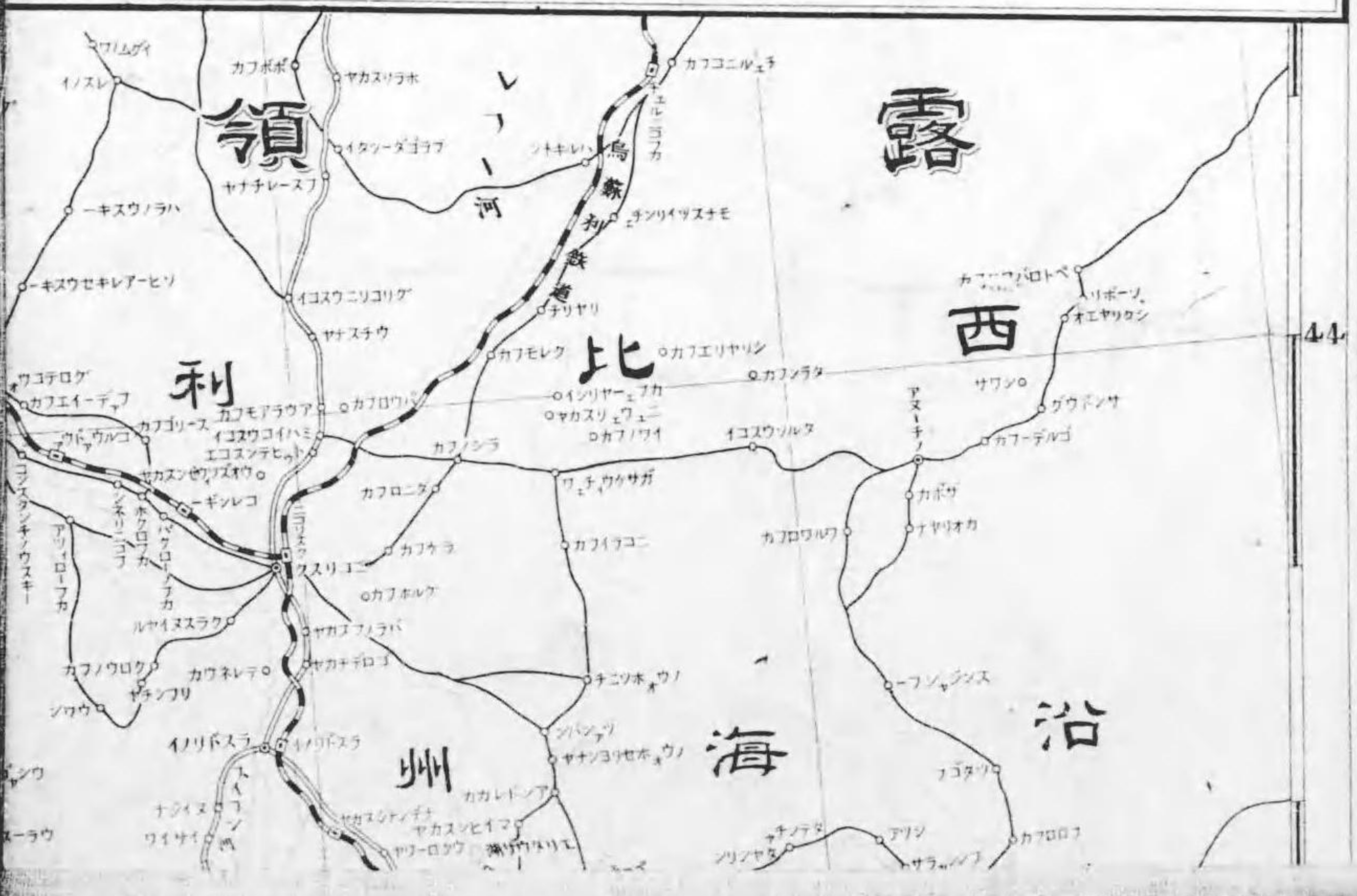
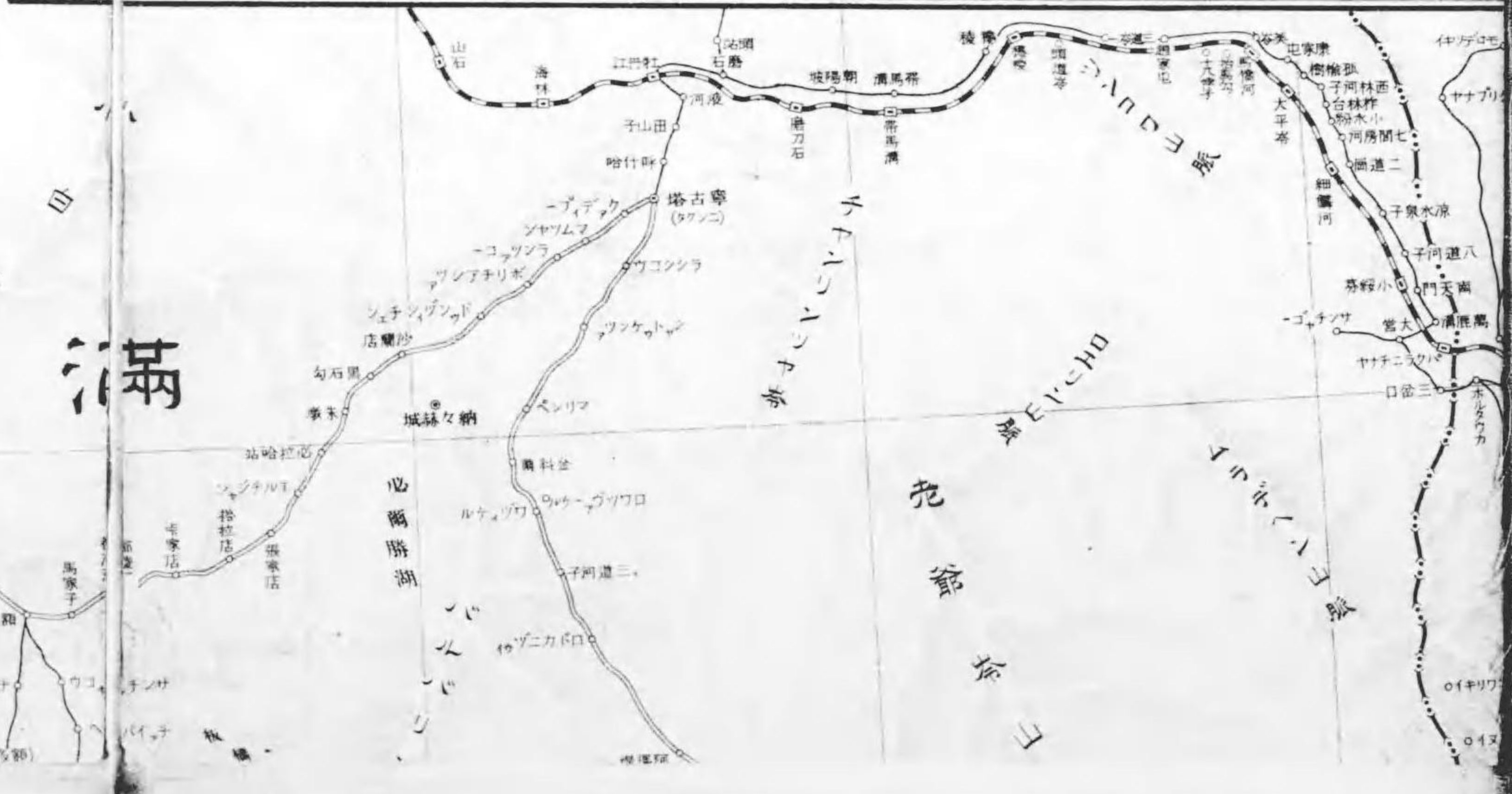
127° 128°



赫
書

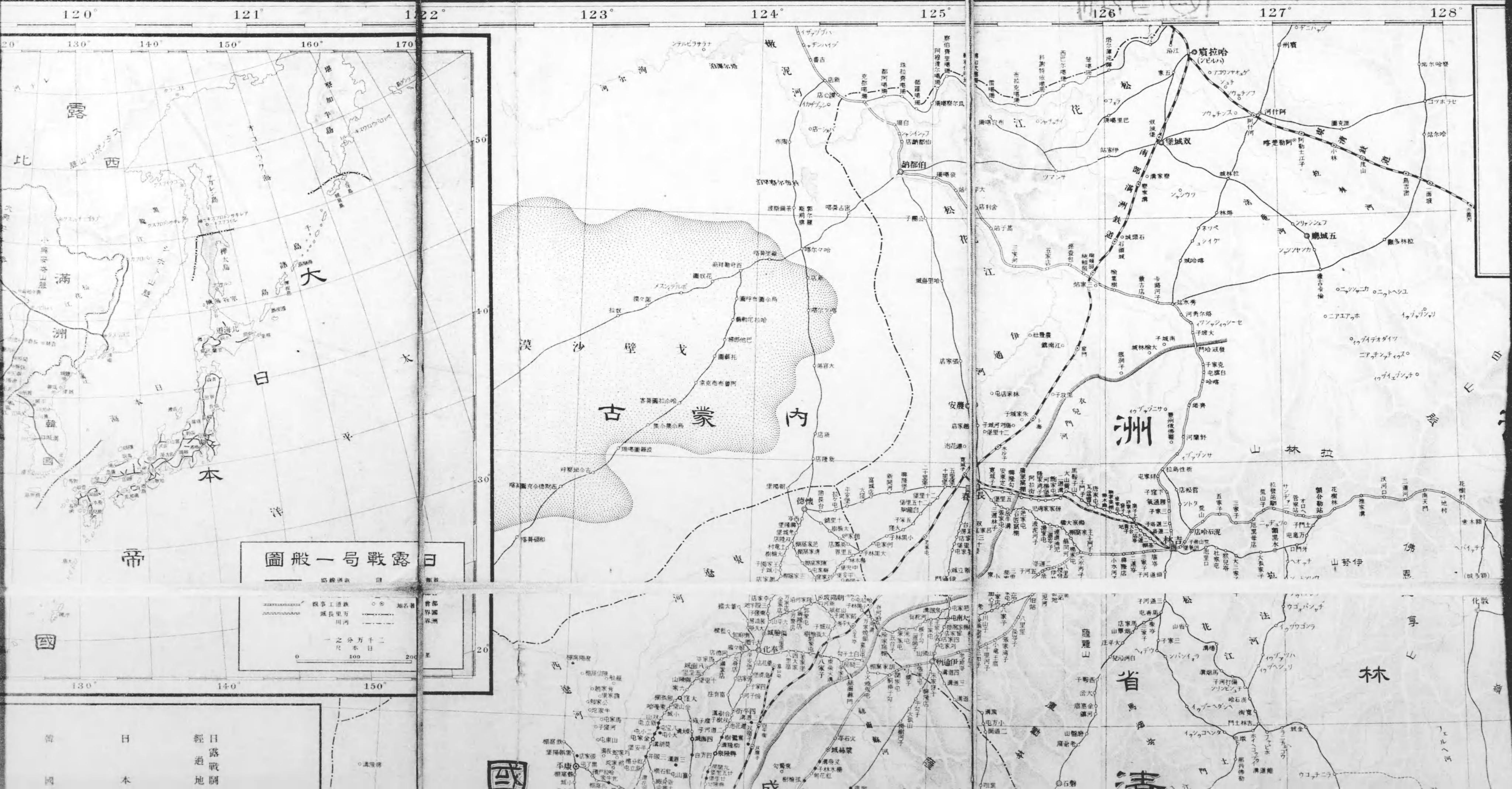
光

國



140° 142° 144°

治 三 十 七 年 戰 役 紀 念



日露戰役一覽圖

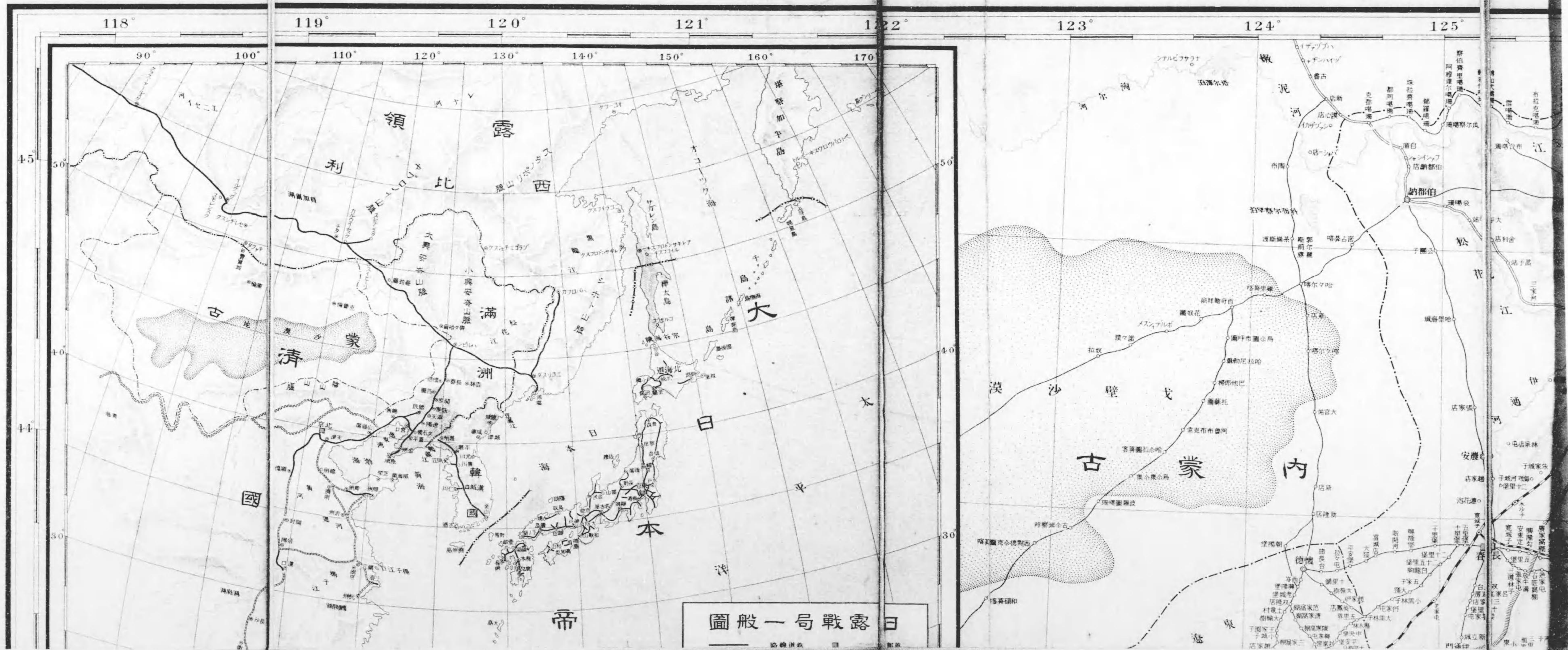
鐵道 鐵道線
 長城 長城線
 川河 川河線
 地名 地名
 省界 省界
 州界 州界

一之二分
 尺本目
 0 100 200

日露戰役
 經過地圖
 日本
 韓國

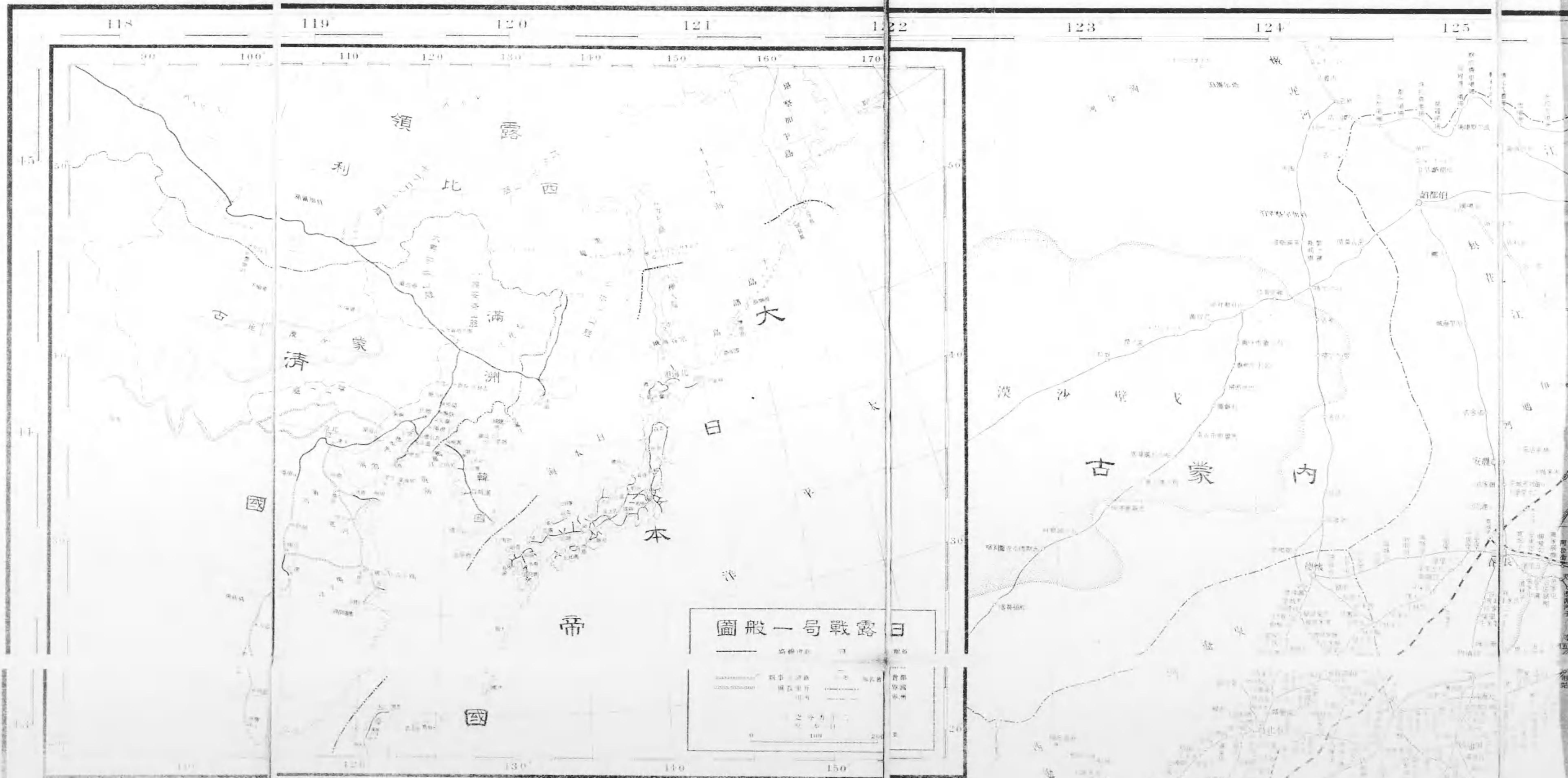
29
29

戰役紀念



17
17

戰役紀念



界國
外河各道聯

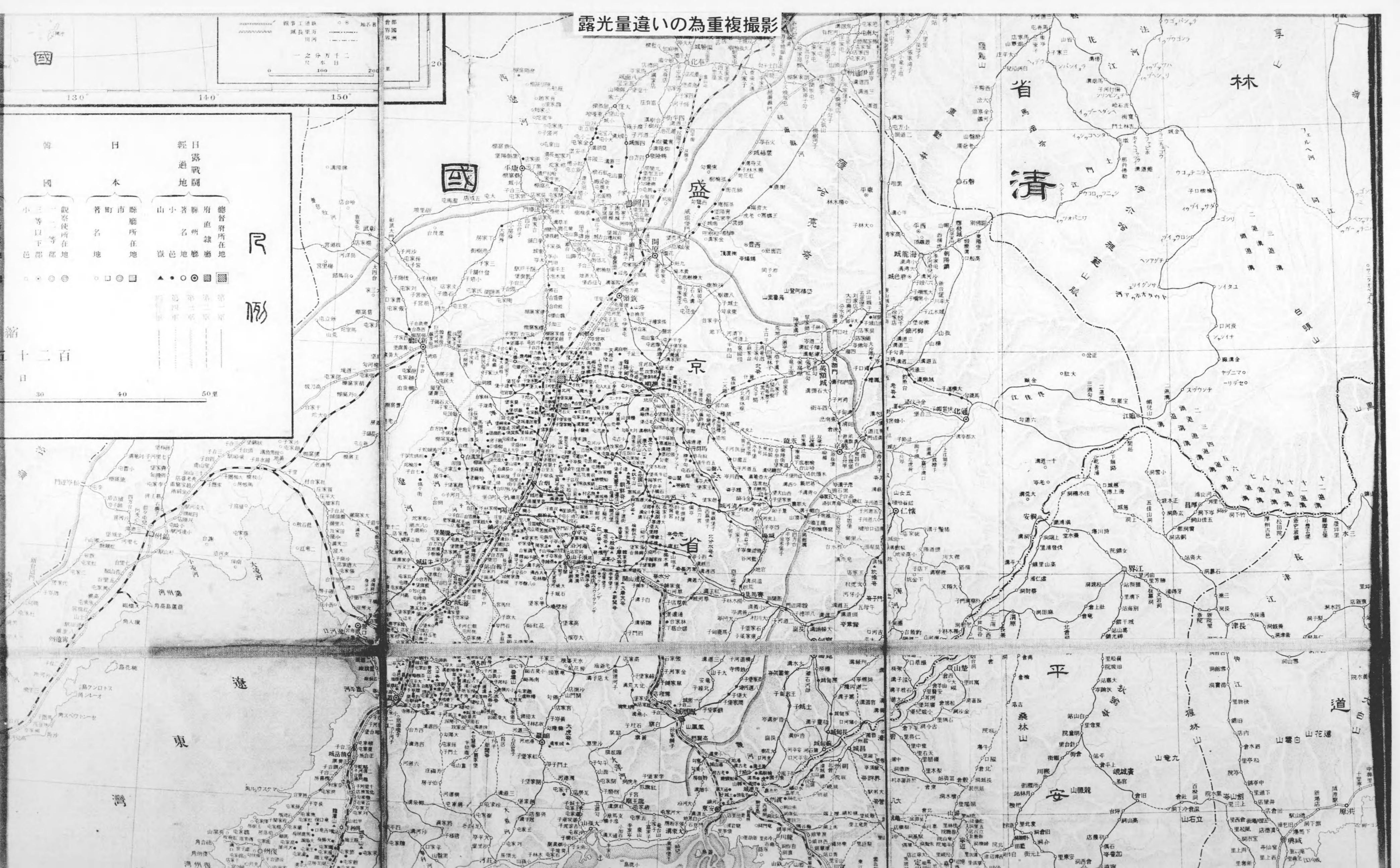
日露戰役
經路圖

云



近 附 口 順 旅

露光量違いの為重複撮影



縮 二 百 日

30 40 50 里

國 本 日 經 目 露 戰 地 關

總督府所在地
府直隸廳
州名
縣名
市名
町名

觀察使所在地
一等以下郡
三等以下郡

一等軍
二等軍
三等軍
四等軍

第一軍
第二軍
第三軍
第四軍

第一軍
第二軍
第三軍
第四軍

東 遼 灣

遼東半島

渤海

遼河

大連

旅順

金州

營口

安東

撫順

鞍山

本溪

鐵嶺

四平街

通遼

彰德

開通

安東

撫順

鞍山

本溪

鐵嶺

四平街

通遼

彰德

開通

遼東

遼河

大連

旅順

金州

營口

安東

撫順

鞍山

本溪

鐵嶺

四平街

通遼

彰德

開通

安東

撫順

鞍山

本溪

鐵嶺

四平街

通遼

彰德

開通

京 省

北京

天津

保定

石家莊

張家口

歸綏

包頭

蘭州

西寧

銀川

蘭州

西寧

銀川

蘭州

西寧

銀川

京 省

北京

天津

保定

石家莊

張家口

歸綏

包頭

蘭州

西寧

銀川

蘭州

西寧

銀川

蘭州

西寧

銀川

京 省

北京

天津

保定

石家莊

張家口

歸綏

包頭

蘭州

西寧

銀川

蘭州

西寧

銀川

蘭州

西寧

銀川

清 省

濟南

青島

煙台

濰縣

周村

博山

臨沂

德縣

滄州

石家莊

張家口

歸綏

包頭

蘭州

西寧

銀川

清 省

濟南

青島

煙台

濰縣

周村

博山

臨沂

德縣

滄州

石家莊

張家口

歸綏

包頭

蘭州

西寧

銀川

清 省

濟南

青島

煙台

濰縣

周村

博山

臨沂

德縣

滄州

石家莊

張家口

歸綏

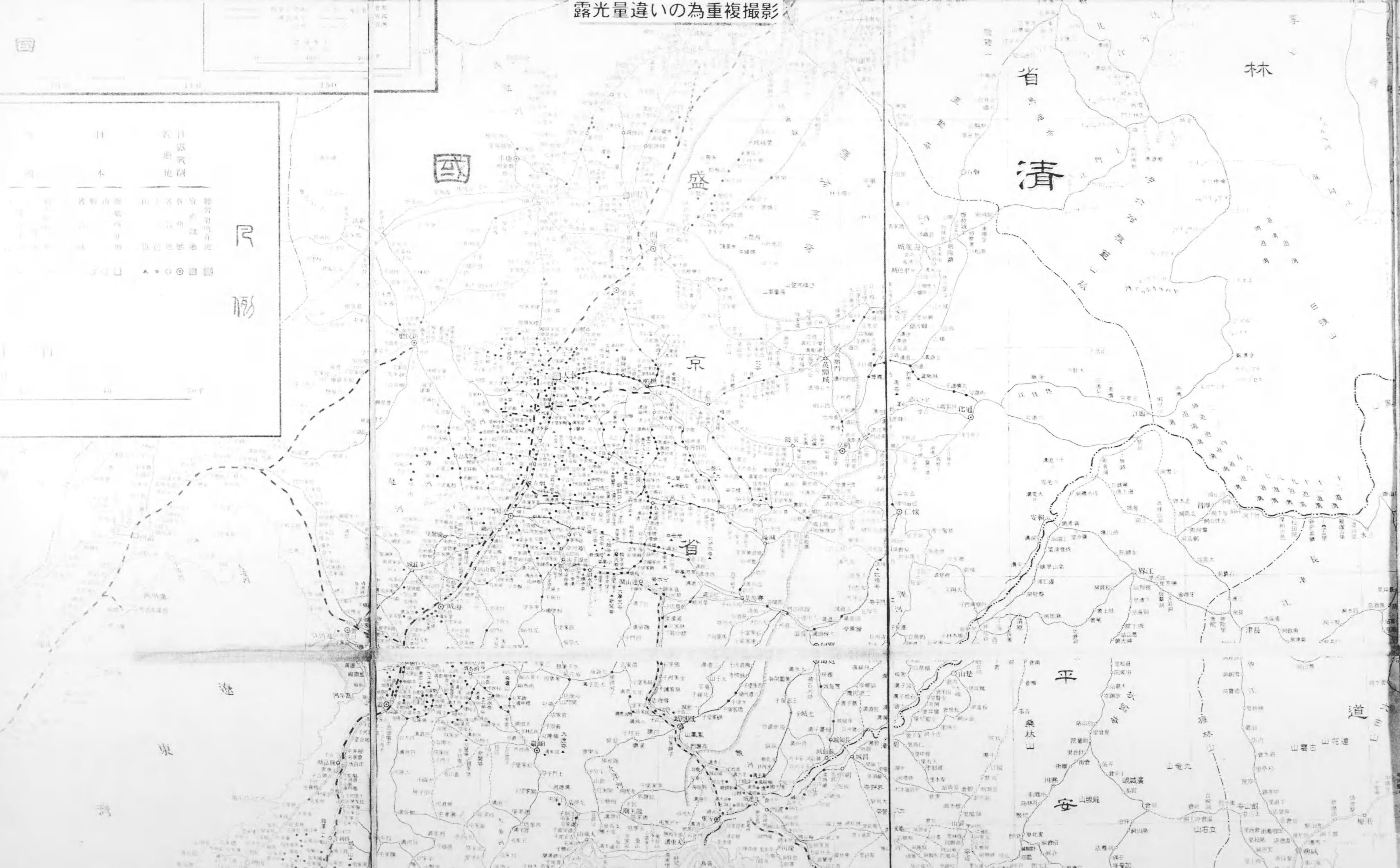
包頭

蘭州

西寧

銀川

露光量違いの為重複撮影



國
 日本
 經路戰地
 總督府所在地
 直隸
 察哈爾
 綏遠
 熱河
 遼寧
 山東
 山西
 河南
 湖北
 湖南
 陝西
 甘肅
 四川
 雲南
 貴州
 廣西
 廣東
 廣西
 福建
 浙江
 安徽
 江蘇
 山東
 河南
 湖北
 湖南
 陝西
 甘肅
 四川
 雲南
 貴州
 廣西
 廣東
 福建
 浙江
 安徽
 江蘇

尺

東

省
清

林

盛

京

省

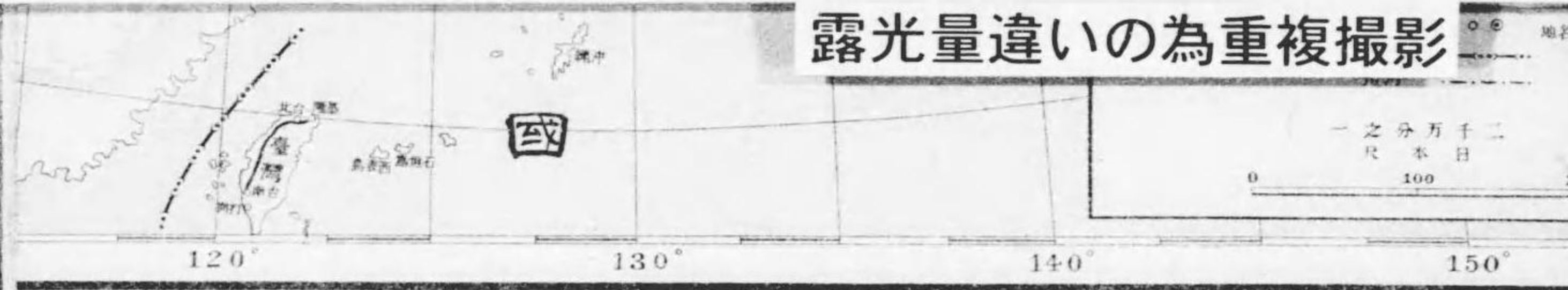
平

安

道

露光量違いの為重複撮影

43



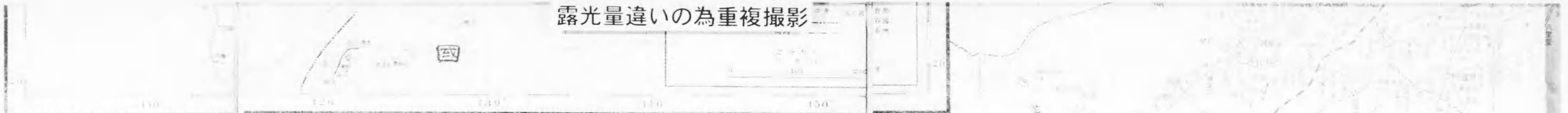
道大 界國
道小 界州省道縣
路道門不 橋長
線信電底海 門道鐵
台燈 線車停
城長里万 道鐵便輕

露 清 韓 日 經 日
國 國 國 本 過 露
小 中 大 總 府 總
邑 邑 邑 督 直 督
及 所 所 府 府 府
上 在 在 所 所 所
人 地 地 地 地 地
部 地 地 地 地 地
落 邑 邑 府 府 府
落 地 地 地 地 地

尺縮
一分万五十二百
里本日



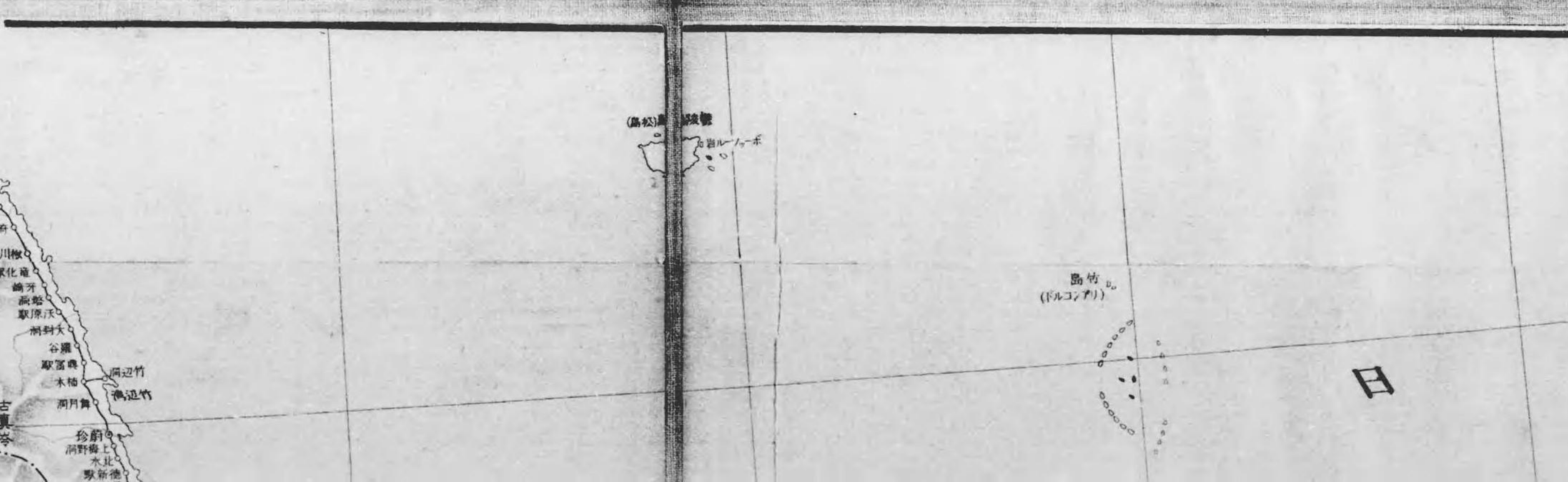
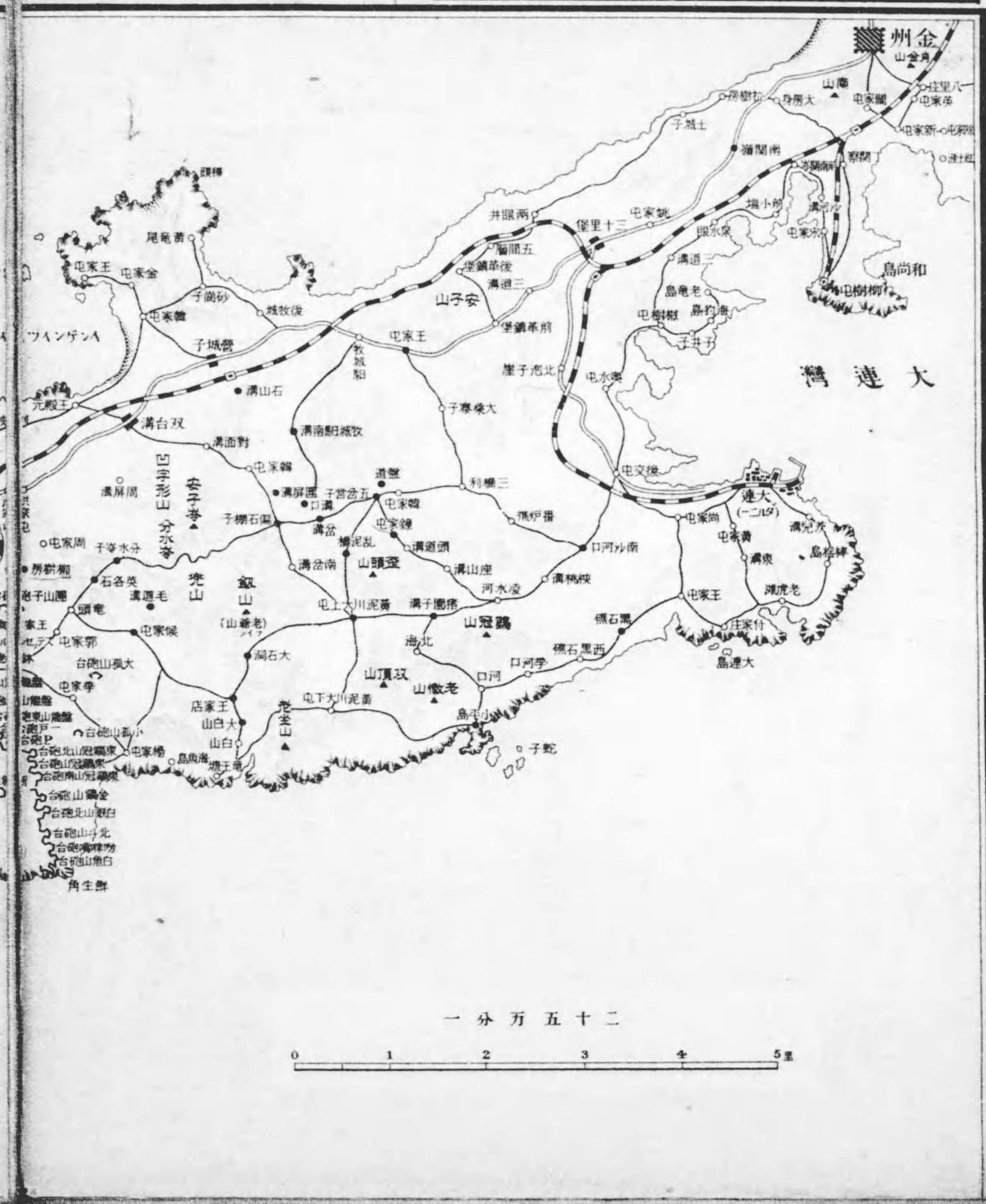
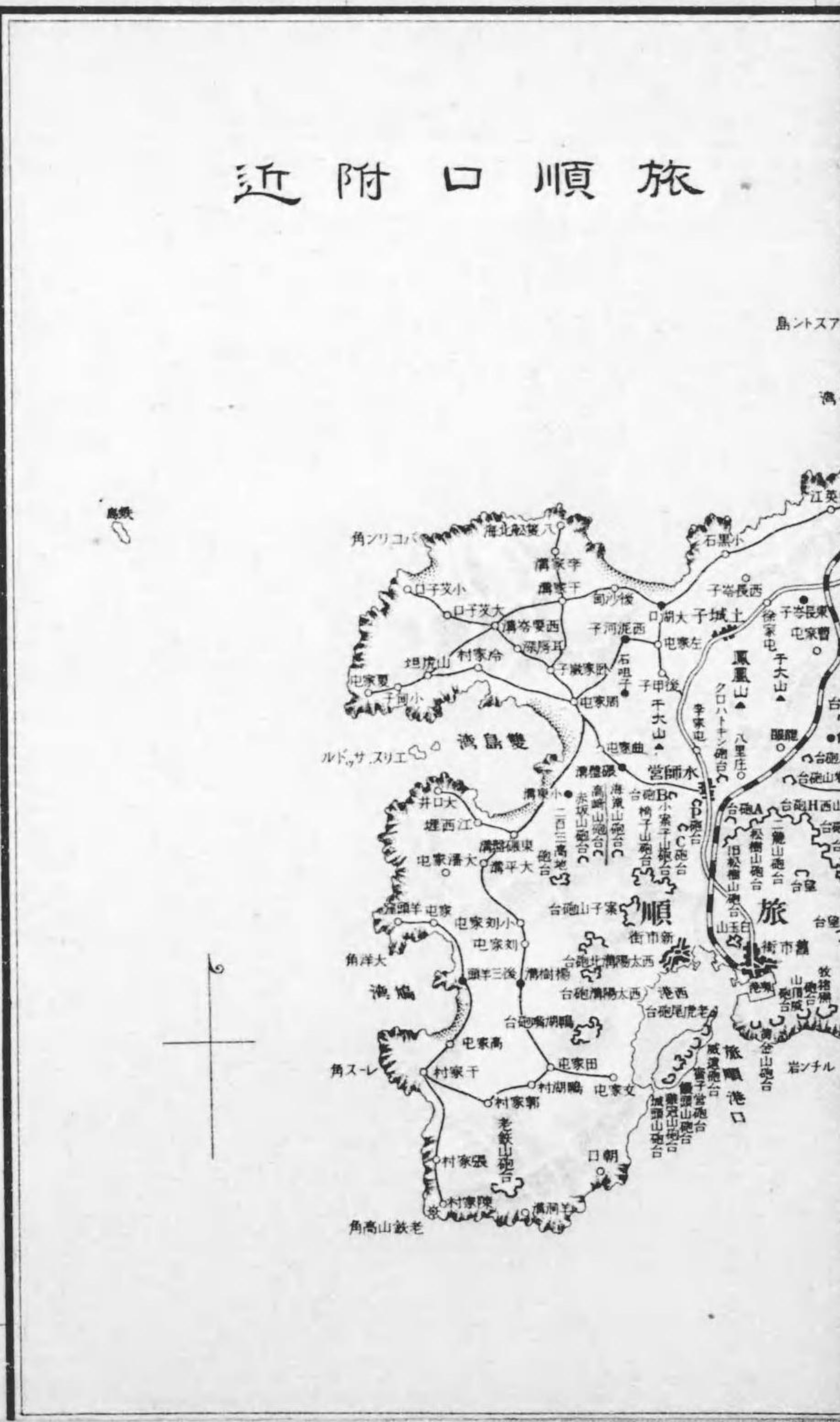
露光量違いの為重複撮影



| | | | | | | | |
|----|------|---|---|---|---|---|---|
| 通光 | 線路 | 赤 | 青 | 黄 | 白 | 緑 | 紫 |
| 通光 | 官省道路 | 河 | 湖 | 池 | 田 | 山 | 市 |
| 通光 | 地方官道 | 池 | 湖 | 池 | 田 | 山 | 市 |
| 通光 | 通光 | 池 | 湖 | 池 | 田 | 山 | 市 |
| 通光 | 通光 | 池 | 湖 | 池 | 田 | 山 | 市 |
| 通光 | 通光 | 池 | 湖 | 池 | 田 | 山 | 市 |

尺縮
分万五十二百
川本社



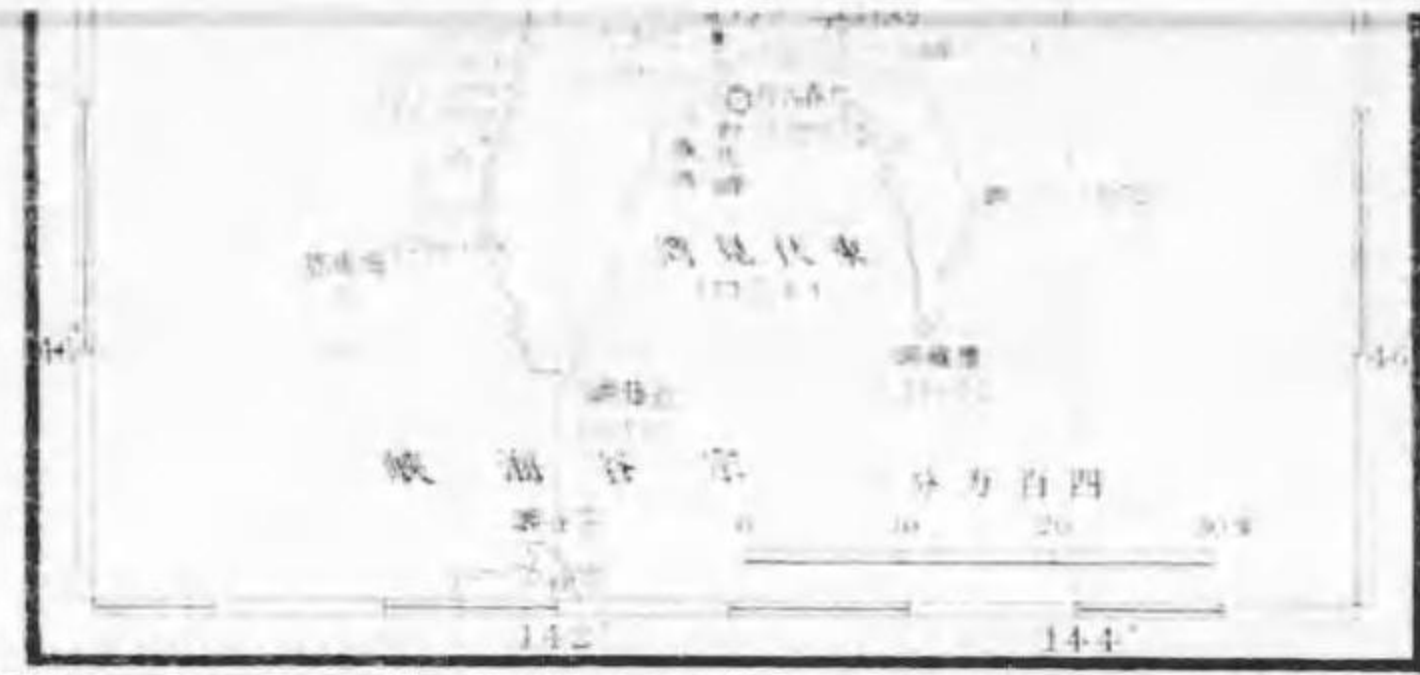
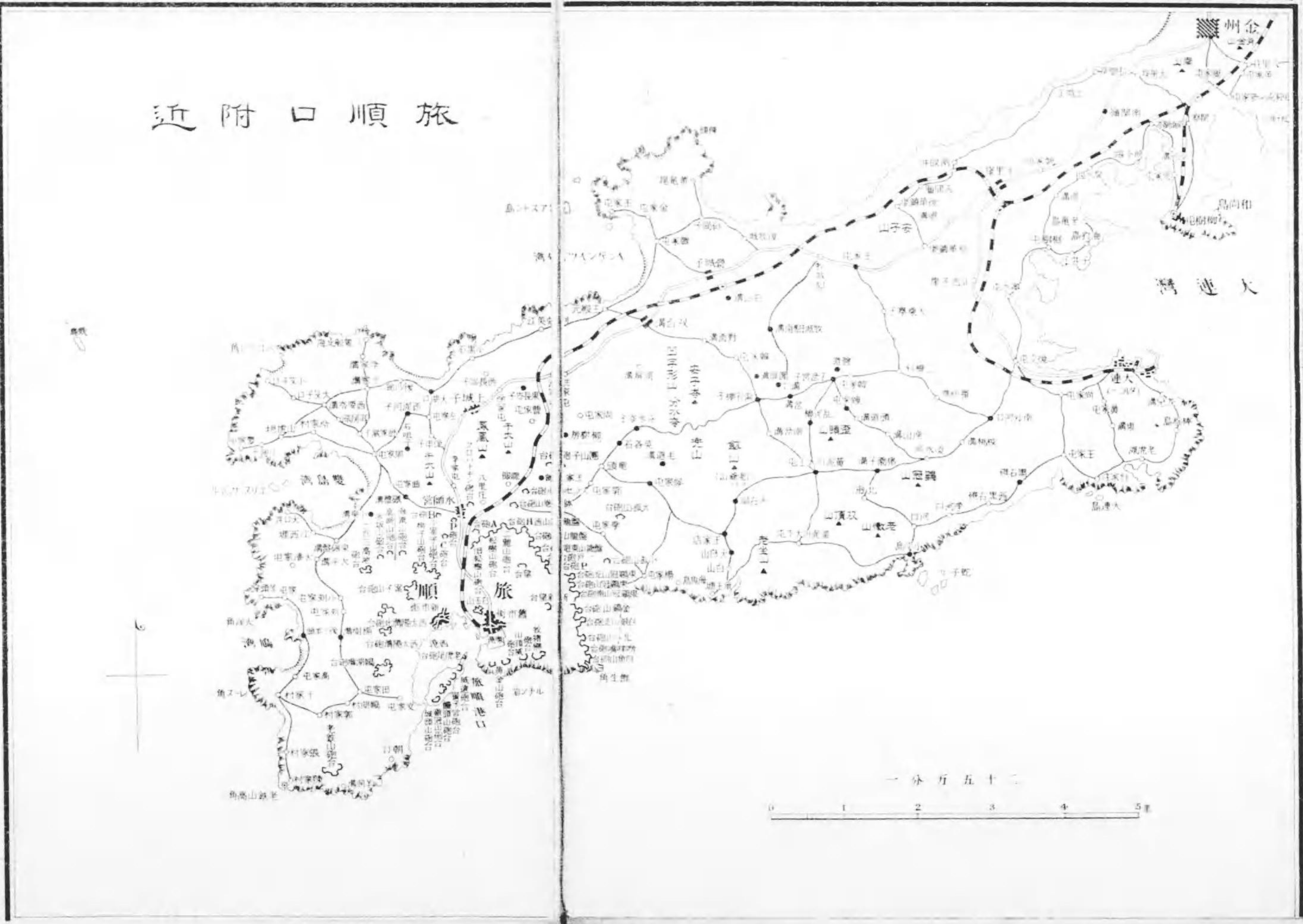


40

39

38

37



40

39

37

日

露光量違いの為重複撮影



渤海

黄

海

此の如く、日清戦争の戦況を示す地図である。渤海、黄海、山東省、河北省の各地方に、戦況を示す記号や線が描かれている。特に、膠州湾（膠州湾）の戦況が中心に描かれている。この地図は、露光量の違いによる重複撮影によるものである。

戦況を示す記号や線は、主に膠州湾の周辺に集中している。これは、日清戦争の重要な戦場であったことを示している。また、渤海と黄海の間の交通線や、山東省と河北省の境界線も示されている。

大山元帥閣下題字 檢
 明二十八年戦役記念地圖
 緒言
 日露戦争、我國有史以來、
 シテ、第一の偉業也。冠絶スルノ國
 揚シタル空前戦役、戦捷傳
 國民永世語り傳ヘルモノナリ。
 平和ノ風、戦力トシテ、
 ツノ、謀略トシテ、語り傳ヘ、
 ノナリトス。然レドモ、
 ノ語り傳ヘ、
 同想セシムヘシ。最モ、
 七ノナリトス。然レドモ、
 無クシテ、
 スヘシ。然レドモ、
 ハ是レ、
 此ノ古未嘗有、
 滿蒙ノ地、
 人ノ迎、
 東亞通商貿易ノ上、
 世事益々多端トシテ、
 正確ナル地圖ノ必要、
 リ然レドモ、
 ノ紀念スベキ、
 直ノ、
 茲ニ於テ、
 國九何レモ、
 行ノ、
 下ニ、
 ノ冠、
 編纂者ノ、
 閣下、
 陸海軍、
 千古未嘗有、

加川千義
 戦況経過地名記事
 陸軍部
 此の地図は、日清戦争の戦況を示すものである。戦況の経過や地名の記事、陸軍部の関係が記されている。加川千義の戦況経過地名記事、陸軍部の関係が記されている。

山東省
 河北省
 渤海
 黄海
 戦況経過地名記事
 陸軍部
 此の地図は、日清戦争の戦況を示すものである。戦況の経過や地名の記事、陸軍部の関係が記されている。

露光量違いの為重複撮影

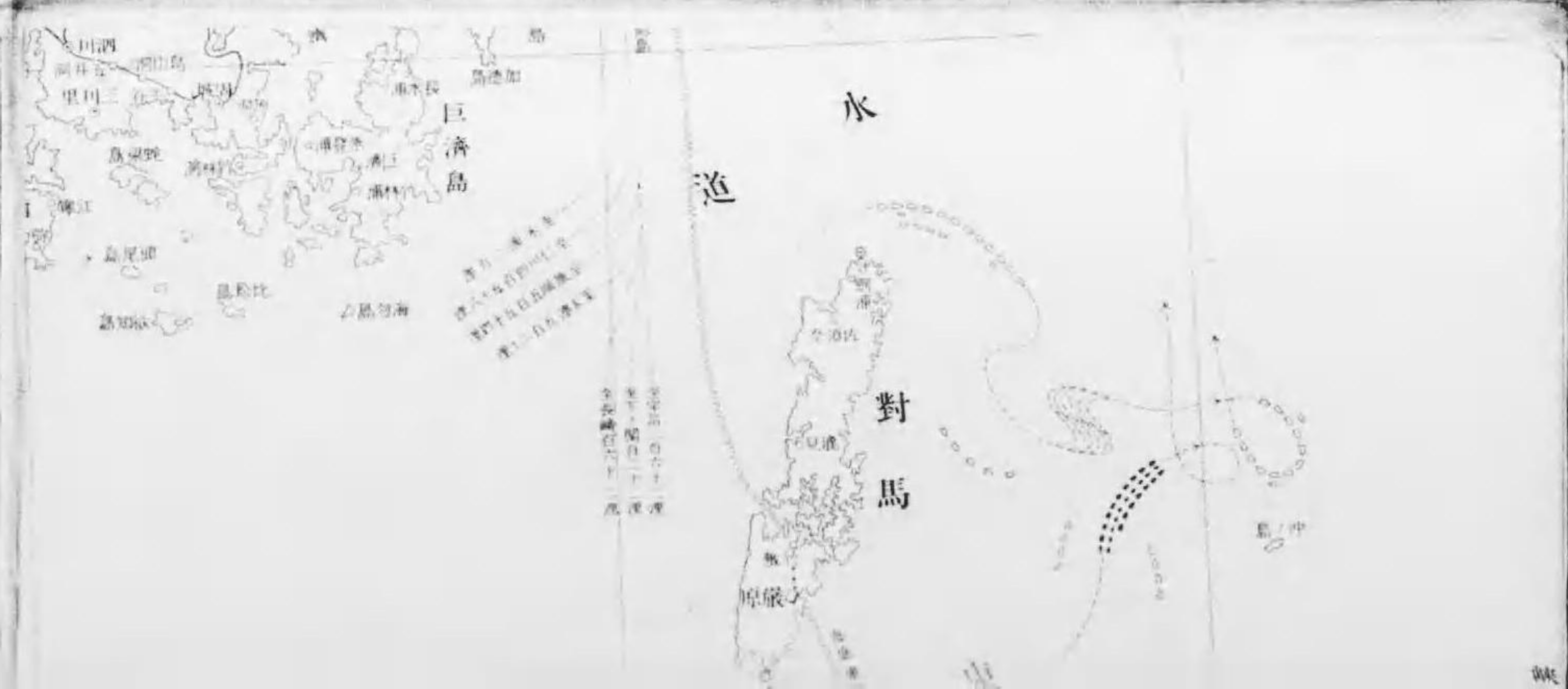


日本海

明治二十八年五月廿七日 日本海海戦参加艦隊

| | | | | | |
|---------|--------|-----|-----|-----|-----|
| 戦艦 六隻 | 出雲 | 扶桑 | 比叟 | 加賀 | 陸奥 |
| 戦艦 四隻 | 新加 | 高城 | 赤城 | 神通 | 伊勢 |
| 通商艦 五隻 | 海軍大臣官邸 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 | 海軍省 |
| 水雷艦 七隻 | 水雷艦 | 水雷艦 | 水雷艦 | 水雷艦 | 水雷艦 |
| 潜水艦 八隻 | 潜水艦 | 潜水艦 | 潜水艦 | 潜水艦 | 潜水艦 |
| 海防艦 九隻 | 海防艦 | 海防艦 | 海防艦 | 海防艦 | 海防艦 |
| 駆逐艦 十隻 | 駆逐艦 | 駆逐艦 | 駆逐艦 | 駆逐艦 | 駆逐艦 |
| 特務艦 十一隻 | 特務艦 | 特務艦 | 特務艦 | 特務艦 | 特務艦 |
| 合計 六十隻 | | | | | |

戦艦 六隻 出雲 扶桑 比叟 加賀 陸奥
 戦艦 四隻 新加 高城 赤城 神通 伊勢
 通商艦 五隻 海軍大臣官邸 海軍省 海軍省 海軍省
 水雷艦 七隻 水雷艦 水雷艦 水雷艦 水雷艦
 潜水艦 八隻 潜水艦 潜水艦 潜水艦 潜水艦
 海防艦 九隻 海防艦 海防艦 海防艦 海防艦
 駆逐艦 十隻 駆逐艦 駆逐艦 駆逐艦 駆逐艦
 特務艦 十一隻 特務艦 特務艦 特務艦 特務艦
 合計 六十隻



露光量違いの為重複撮影

海

東

加川千代子詩讀

戦艦沈没地名記事摘要

戦艦沈没地名記事摘要

戦艦沈没地名記事摘要

戦艦沈没地名記事摘要

戦艦沈没地名記事摘要

戦艦沈没地名記事摘要

大山元帥閣下題字及檢閱
明治十一年戦役記念地圖

大山元帥閣下題字及檢閱

大山元帥閣下題字及檢閱

大山元帥閣下題字及檢閱

大山元帥閣下題字及檢閱

大山元帥閣下題字及檢閱

海戦之部

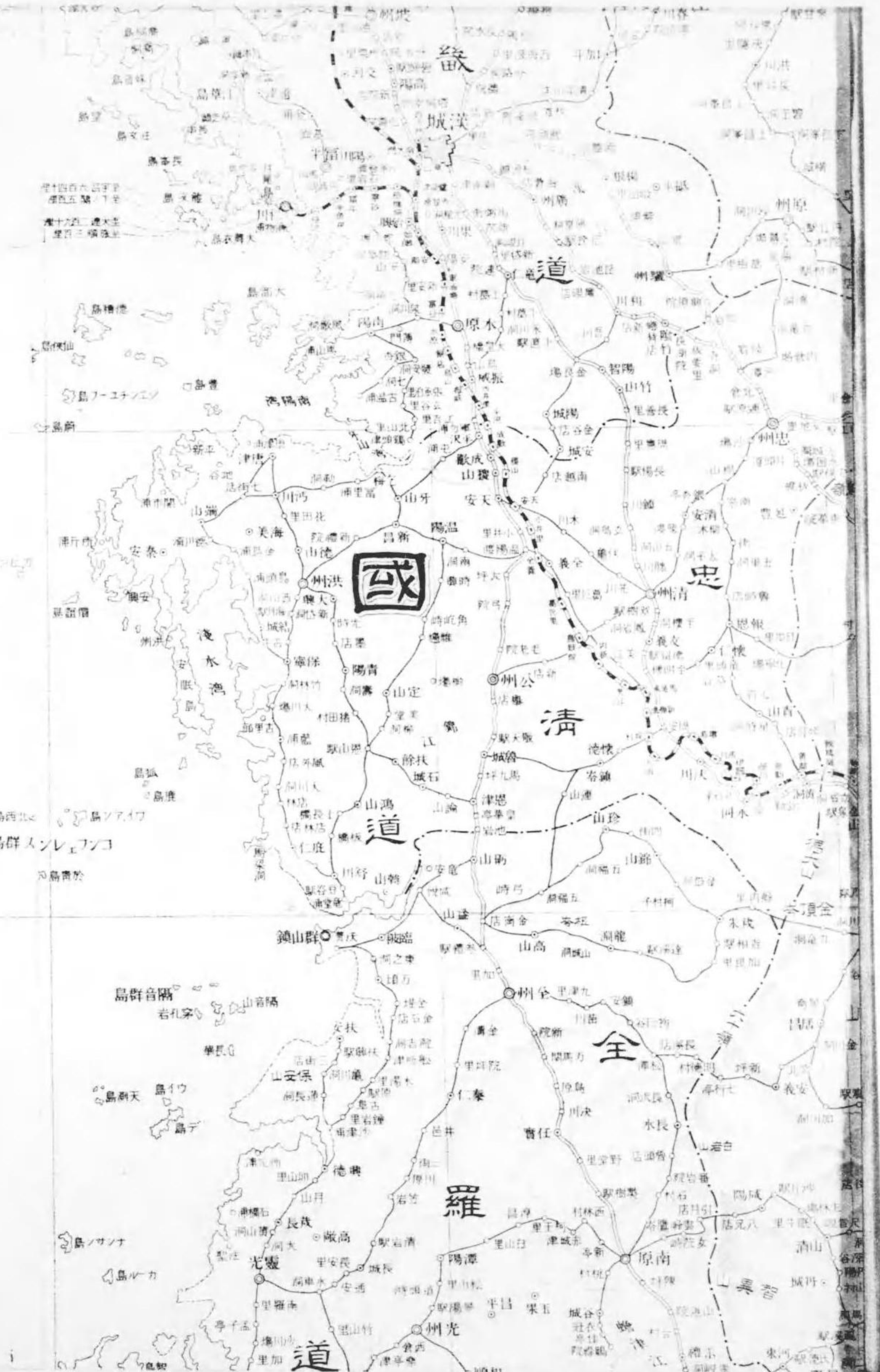
海戦之部

海戦之部

海戦之部

海戦之部

海戦之部



露光量違いの為重複撮影



大山元帥閣下題字及檢閱

明治三十年戰役紀念地圖
日露戰役ハ我國有史以來ノ大戦ニシテ...

加川千義 謹識

戰國經過地名記事概要
陸戦之部
(一) 三月 遼東 遼陽 奉天...

大山元帥閣下題字及檢閱 (Continuation)
日露戰役ハ我國有史以來ノ大戦ニシテ...

加川千義 謹識 (Continuation)
戰國經過地名記事概要 (Continuation)
(二) 四月 遼東 遼陽 奉天...

戰國經過地名記事概要 (Continuation)
(三) 五月 遼東 遼陽 奉天...

海戦之部
(一) 三月 遼東 遼陽 奉天...

加川千義 謹識 (Continuation)
戰國經過地名記事概要 (Continuation)
(四) 六月 遼東 遼陽 奉天...

戰國經過地名記事概要 (Continuation)
(五) 七月 遼東 遼陽 奉天...

海戦之部 (Continuation)
(二) 四月 遼東 遼陽 奉天...

加川千義 謹識 (Continuation)
戰國經過地名記事概要 (Continuation)
(六) 八月 遼東 遼陽 奉天...

戰國經過地名記事概要 (Continuation)
(七) 九月 遼東 遼陽 奉天...

海戦之部 (Continuation)
(三) 五月 遼東 遼陽 奉天...

加川千義 謹識 (Continuation)
戰國經過地名記事概要 (Continuation)
(八) 十月 遼東 遼陽 奉天...

戰國經過地名記事概要 (Continuation)
(九) 十一月 遼東 遼陽 奉天...

海戦之部 (Continuation)
(四) 六月 遼東 遼陽 奉天...

加川千義 謹識 (Continuation)
戰國經過地名記事概要 (Continuation)
(十) 十二月 遼東 遼陽 奉天...

戰國經過地名記事概要 (Continuation)
(十一) 遼東 遼陽 奉天...

印刷所 陸

一軍參謀本部印刷御

著作
明治三十九年六月十八日
明治三十九年六月二十日

發行所
製圖者
印刷者

里程

著作
明治三十九年六月十八日
明治三十九年六月二十日

露光量違いの為重複撮影

露光量の違いによる重複撮影の発生は、主に以下の原因によるものと見られる。まず、カメラの露光計が正確に動作していない場合、あるいは撮影者の手振りで露光時間が変動している可能性がある。また、フィルムが劣化している場合、露光量に対する感度が低下し、重複撮影を引き起こすこともある。さらに、カメラのシャッター機構に異常が生じている場合、一度のシャッター操作で複数回の露光が行われる可能性がある。このような問題を回避するためには、カメラの定期的なメンテナンスと、撮影時の手振りを防ぐための三脚の使用が有効である。また、フィルムは必ずしも最新のものを必ずしも使用する必要はないが、劣化が著しいものは避けるべきである。シャッター機構の異常は、カメラの取扱説明書を確認し、必要に応じて専門の修理店に依頼する必要がある。



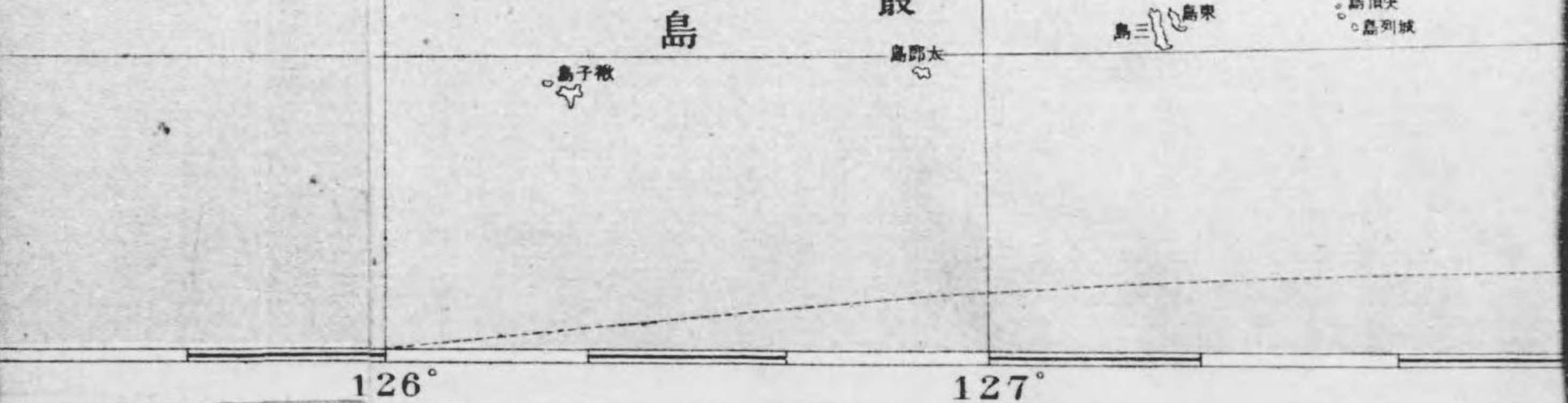
この部分には、露光量に関する技術的な解説や、カメラの取り扱いに関するアドバイスが記載されている。また、重複撮影の発生を防ぐための具体的な手順や、カメラの各部の役割についても詳しく説明されている。読者は、これらの情報を参考に、より正確な撮影を行うことができるようになる。特に、露光計の校正方法や、シャッター機構の点検方法については、非常に重要な情報である。



この部分には、露光量に関する技術的な解説や、カメラの取り扱いに関するアドバイスが記載されている。また、重複撮影の発生を防ぐための具体的な手順や、カメラの各部の役割についても詳しく説明されている。読者は、これらの情報を参考に、より正確な撮影を行うことができるようになる。特に、露光計の校正方法や、シャッター機構の点検方法については、非常に重要な情報である。



この部分には、露光量に関する技術的な解説や、カメラの取り扱いに関するアドバイスが記載されている。また、重複撮影の発生を防ぐための具体的な手順や、カメラの各部の役割についても詳しく説明されている。読者は、これらの情報を参考に、より正確な撮影を行うことができるようになる。特に、露光計の校正方法や、シャッター機構の点検方法については、非常に重要な情報である。



里程表

| 区間 | 距離 (km) | 所要時間 (分) |
|---------|---------|----------|
| 東京 - 横浜 | 35 | 15 |
| 東京 - 上野 | 10 | 5 |
| 東京 - 池袋 | 20 | 10 |
| 東京 - 大塚 | 25 | 12 |
| 東京 - 有明 | 30 | 15 |
| 東京 - 品川 | 35 | 18 |
| 東京 - 大塚 | 25 | 12 |
| 東京 - 池袋 | 20 | 10 |
| 東京 - 上野 | 10 | 5 |
| 東京 - 横浜 | 35 | 15 |

海戦の部

海戦の部には、第二次世界大戦中の重要な海戦に関する詳細な報告が掲載されている。ここでは、太平洋戦争におけるいくつかの主要な海戦について、戦況の経過や戦果、そして戦術的な分析が提供されている。読者は、これらの報告を通じて、当時の海軍作戦の規模と複雑さを理解することができる。また、各艦隊の動きや、空母の役割についても詳しく説明されている。この部分には、多くの写真や図表も含まれており、視覚的に戦況を把握しやすくなっている。

立案編纂者

加川千義

編纂者

安藤力之助

木血惣四郎

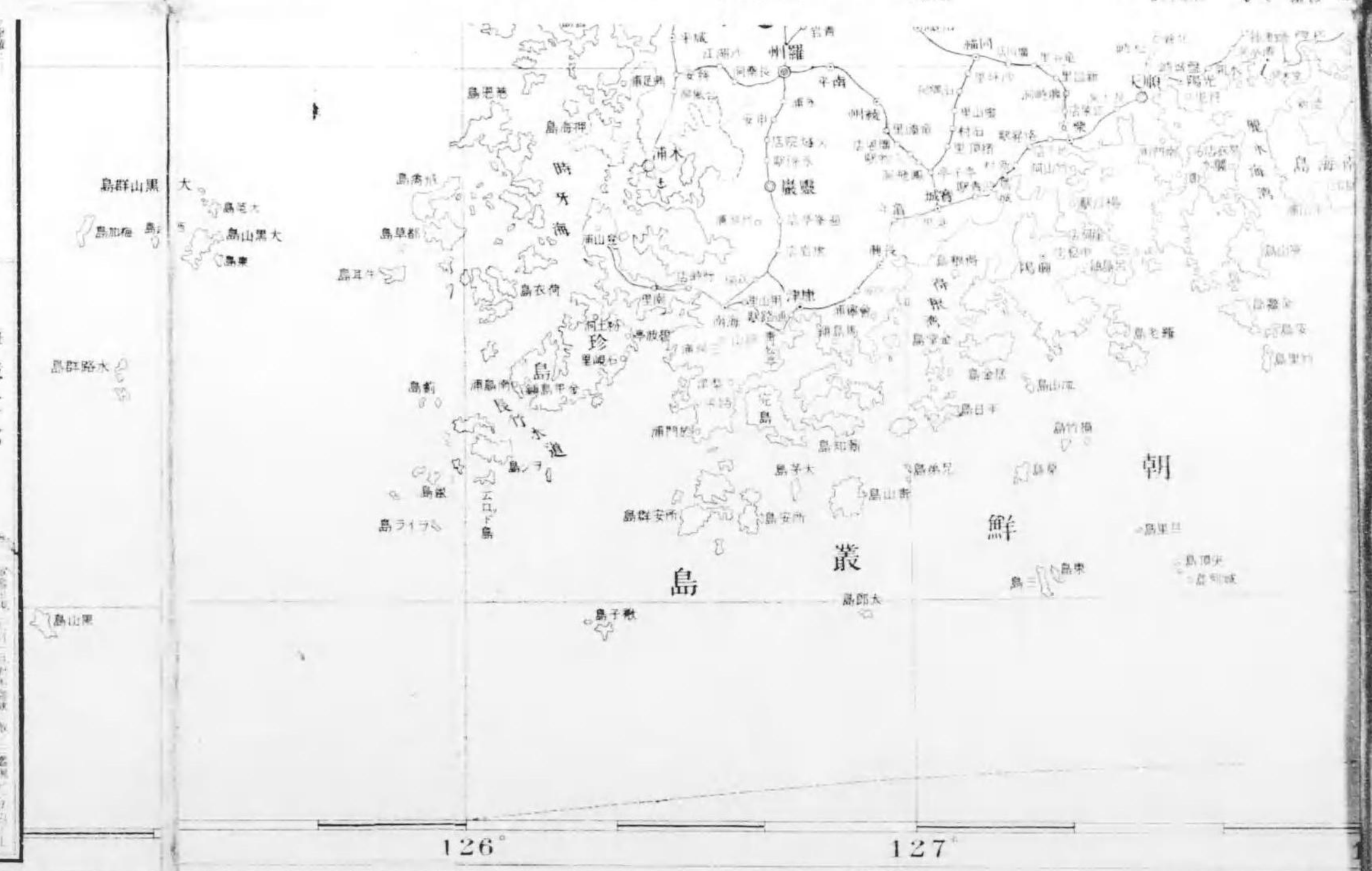
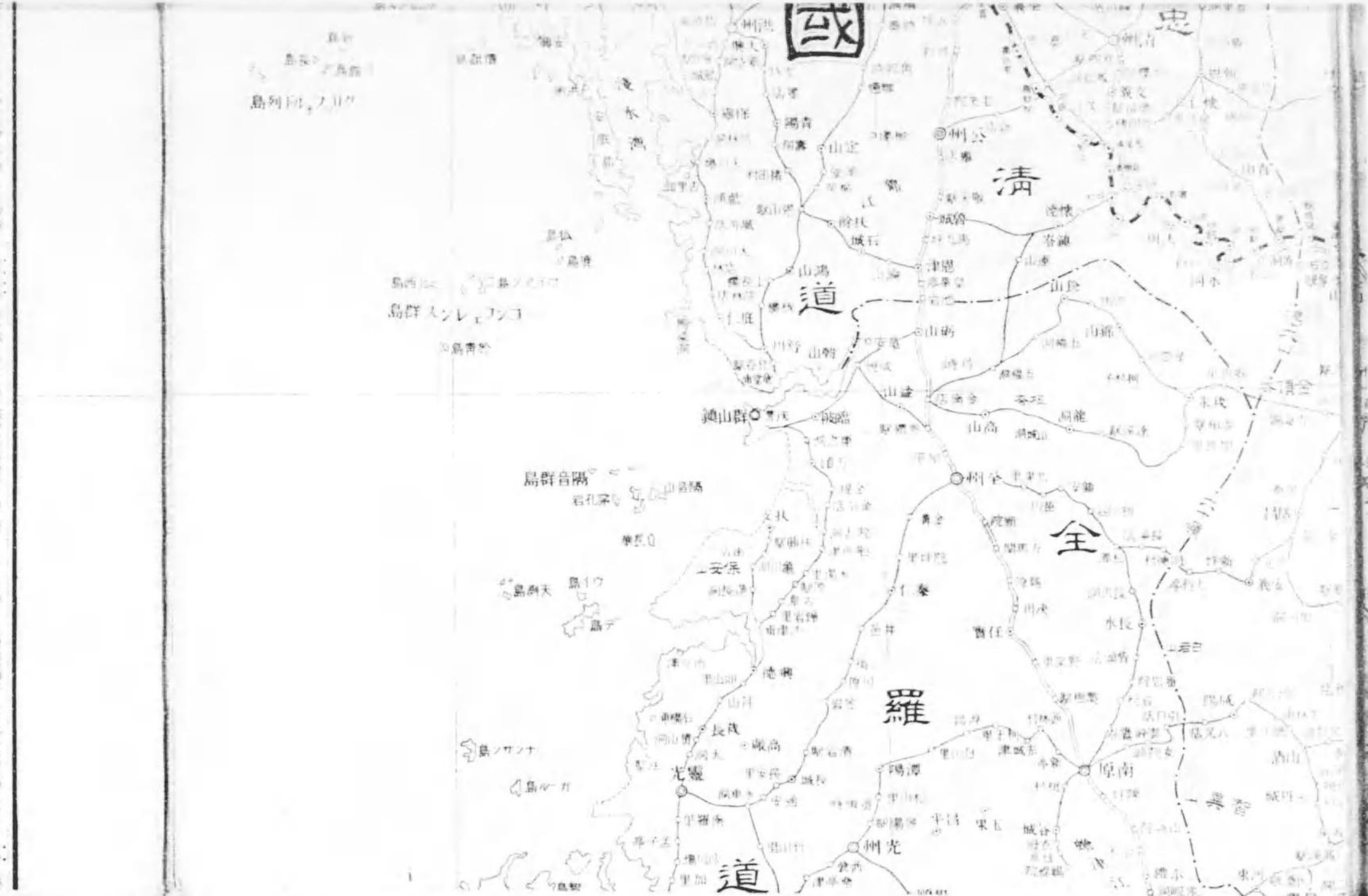
露光量違いの為重複撮影

本島嶼群の概観 本島嶼群は、北緯35度、東経130度、に位置し、面積は約1,000平方キロメートルに達する。島の形状は、概して南北に長く、東西に短い。島の数は、約1,000に達する。島の最高峰は、北緯37度、東経130度、に位置し、標高は約2,000メートルに達する。島の地質は、主に火成岩と堆積岩からなる。島の気候は、主に海洋性気候に属する。島の人口は、約100,000に達する。島の産業は、主に漁業と観光業に依存している。島の交通は、主に航空と船舶による。島の歴史は、古くから人類の居住地として知られている。島の文化は、独特の風情を醸成している。島の自然環境は、美しい風景を演出している。島の社会は、平和と安定を維持している。島の未来は、明るい展望を前にしている。

島の地質 島の地質は、主に火成岩と堆積岩からなる。火成岩は、主に玄武岩と安山岩からなる。堆積岩は、主に砂岩と泥岩からなる。島の地質は、複雑な構造を呈している。島の地質は、島の地形と気候に大きな影響を与えている。島の地質は、島の資源と産業に大きな影響を与えている。島の地質は、島の歴史と文化に大きな影響を与えている。島の地質は、島の未来に大きな影響を与えている。

島の気候 島の気候は、主に海洋性気候に属する。島の気候は、四季を通じて穏やかで、降水量は豊富である。島の気候は、島の農業と観光業に大きな影響を与えている。島の気候は、島の生活と文化に大きな影響を与えている。島の気候は、島の未来に大きな影響を与えている。

島の人口 島の人口は、約100,000に達する。島の人口は、主に島の中心部に集中している。島の人口は、島の経済と社会に大きな影響を与えている。島の人口は、島の文化と歴史に大きな影響を与えている。島の人口は、島の未来に大きな影響を与えている。



島の歴史 島の歴史は、古くから人類の居住地として知られている。島の歴史は、島の文化と社会に大きな影響を与えている。島の歴史は、島の未来に大きな影響を与えている。

島の文化 島の文化は、独特の風情を醸成している。島の文化は、島の生活と社会に大きな影響を与えている。島の文化は、島の未来に大きな影響を与えている。

島の産業 島の産業は、主に漁業と観光業に依存している。島の産業は、島の経済と社会に大きな影響を与えている。島の産業は、島の未来に大きな影響を与えている。

島の交通 島の交通は、主に航空と船舶による。島の交通は、島の生活と社会に大きな影響を与えている。島の交通は、島の未来に大きな影響を与えている。

里程表

立案編纂者 加川千義
編纂者 安藤力之助
編纂者 木取惣四郎

海戦之部

本島嶼群着手以来、二年有半此間陸海最高當局、諸將士、技師、給材、アノル熱誠、以テ編纂セラル。今漸ク完成ノ遂ケルニ至ル。此大ナル同情、感謝スヘキ事ナリ。本島嶼群ノ其職、開クルノ故、以テ表彰スルコトヲ得ザル深ク遺憾トス。トテ、茲ニ謝辭ヲ録シテ、江湖吉白ス。云々

露光量違いの為重複撮影

本編編纂者手以来、一年有餘此間陸海軍最高階級ノ諸將士ハ校訂ニ給材アリテ熟識ヲ以テ補綴セラル今ヤ漸ク完成ノ遂ケルニ至ルヤ此種大ナル同情ニ感謝スヘキ事ナシガ方ナル記録シテ本國上共ニ天ク紀念セムトス然レドモ其職ノ関ケルノ故ヲ以テ表彰スルコトヲ得ザル深ク遺憾トスル所ナリ諸上幸ニ微意ヲ寄セラレムコトヲ茲ニ聊ク謝辞ヲ録シテ江湖ニ告白スト云爾

海戦之部
本編編纂者 加川千義
編輯者 安藤力之助
編纂者 木皿惣四郎

里程表

Table with multiple columns and rows of text, likely a table of contents or index, containing various entries and page numbers.

著作権所有

明治二十九年六月十八日印刷
明治二十九年六月二十日發行
著作兼發行者 加川千義
發行所 參天閣
製圖書 安藤力之助
印刷者 本原定次郎

印刷所 陸一軍參謀本部印刷御用 川流堂



終